

# 先週の回答

## 蒲柳の質



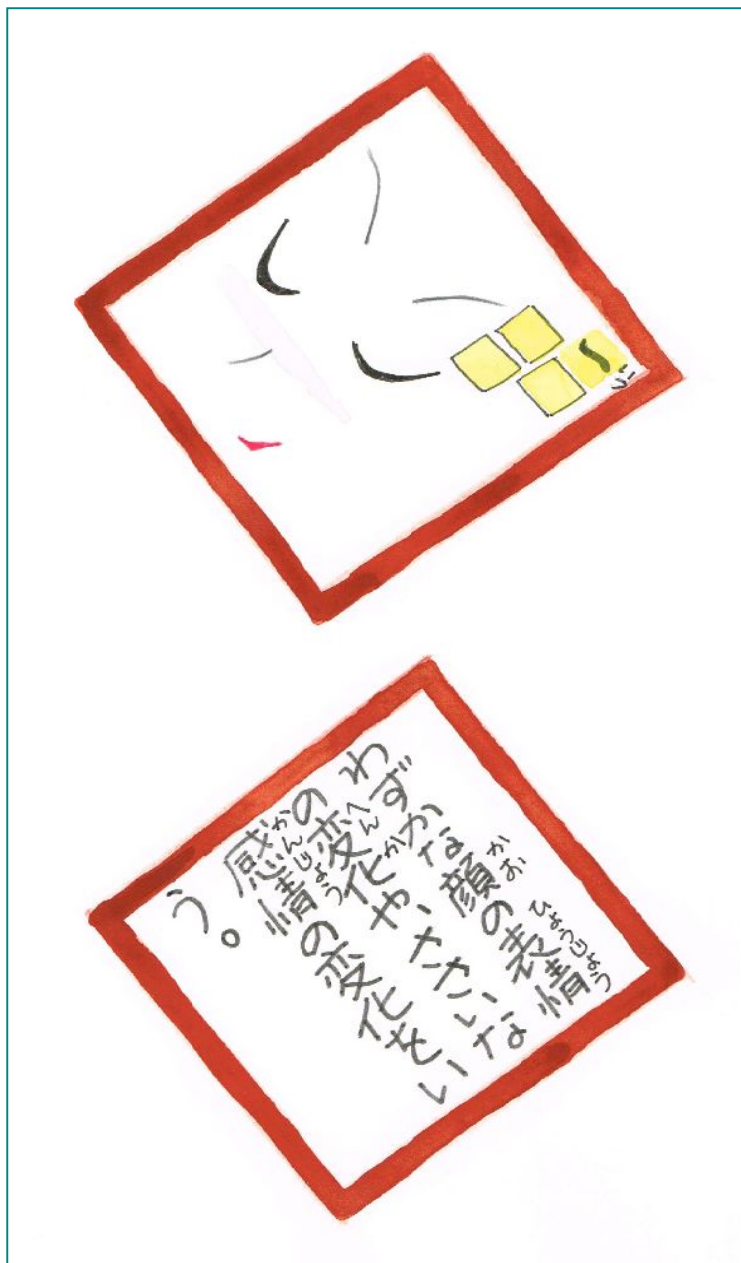
はまぐり小学校のクラス会は、盛り上がっている。  
 「おまえ金魚鉢か」（金魚鉢の底のようなブ厚いレンズのメガネの女の子指さして）  
 「やだ、前後ハゲ？」（小学校時代は、前頭部と後頭部に大きなハゲがあった、今日はカツラをかぶってる男の子を指さして）  
 「おつ、ヘコキ」（オナラばっかりしていた子に）  
 「やだ、出バナ」（鼻の穴が大きく、顔全体が鼻の穴のような男子に）  
 「一丁前に背広なんか着やがって、このスカタン」ゴン、と頭を殴るガキ大将など、久しぶりの再会に、会場はあだ名合

戦で、大さわぎに沸き立っていた。  
 「よつ、川柳じゃねーか、元気か」とガキ大将が肩を叩く。叩かれた男子は下を向いたまま、弱々しい声で、  
 「余命わずか・・・もうみなさんに会うこともないでしょう。ゴホン、ゴホン」と咳き込んで出ていく。一瞬、会場シーンと静まりかえって、みんなが見送った。  
 「そーいえばあいつ、入学した時から病弱だったなあー」  
 「そうそう、いつも下向いて咳ばかりして」  
 「運動しねーのがよくなかったんだよ」  
 「それは言える」  
 「閉じ籠もって、陽に当たらないからいけないのよ」  
 「遺伝じゃないの？」



「そーかも知んねーなあ」  
 「いや」とガキ大将が自信たっぷりに言った。  
 「名前がわかるんだよ」と。  
 全員が「？」  
 『蒲柳の質』とは虚弱体質のこと。『蒲柳』は、かわやなぎの異名。かわやなぎは、早く葉が落ちるので、早く衰える体質にたとえられる。つまり若い時から体が弱いことをいう、とある。  
 「なるほど、川柳は名前を変えるべきなんだなあ・・・」  
 で、全員納得した。

# 今週の問題



□の中に漢字を埋めて  
四字熟語を完成させてください。